へ13
2378
378

特
遠18
2378
378

黒雲太郎雨夜譚

校合　市川三升

作者　乾坤坊良齋

画工　渓齋英泉

文政十一戊子春新鐫

全本六冊合巻　前編

南傳馬町二丁目
紅英堂
蔦屋吉藏上梓

帝国図書館蔵

夫天地は一大戯場なり山川江海の法道具は日月乃
光光に照し中にたゝなる森羅萬象ことごとくもの中なる
皆造物者の無盡藏より出善因悪報さき定やうれば
あらひ驕言は双六賽のちやう目さえ目との相異なるが如し
愚ごのうちは一小冊天地の戯場をこゝろ寸心法界盡藏
よりて善悪邪正の諸道具を出し中づ顔見世の為序幕
を拵へ諸君の評判を窺ふ次乃巻を来春の紙上
待ち見給へ

子春新版

市川三升校合
良齋誌

文覚上人悪魔伏

高尾の文覚

僧の文覚上人ハ渡邊の黨ゑ遠藤左近將監盛光がこゝ十八才ゝ家臣をゝの荒行の内木曽山の奥鬼が嶽ゑ天地よりゆる悪魔を封じこめの後年に成り天狗坊雷元がこゝ伏魔殿を破らゑ百の悪魔四方に飛んで源家頼家の代一度乱る

小蠅尾神ハ鼻きを

残口

山熊平吾ハ中納言友盛の忠臣ゆくゑの首をとらきあとゝ友盛の一子黒雲太郎を守護ゐ木曽の平吾の火是ゝ

稲妻の霊魂

稲妻御前ハ友盛卿の妻ゑ念源家ゐあざせんと鎌倉御所ゑ入を成ゝ頼家をうらこゝ

化物の生脇ふくろう枯尾花也由

雷元本曽の伏魔殿の

天狗坊雷元の教経の郎党童臣の菊王丸之主人の残言よろこび対死をのがれ後年木曽の[illegible]山嶽ゆき伏魔殿をひらき悪神を四方よりらん

首塚より妖法を行ふ

天狗坊雷元

主馬小金吾

盛久が臣子之伏魔殿百人の首塚を

ぶい立九十九人の首とをくめ百人めは私通の娘とやの聖を殺き心中とのろり是を救て首のをを合せ非道の大願をそんとらん

男女相對死の場をそみ五天を起して

をそ人のぶるゝのいわれどのまぐ私通の女をところ〳〵くてろうとまる

ものをさろん

死神よ

釣瓶

冬の月

於娘佐登

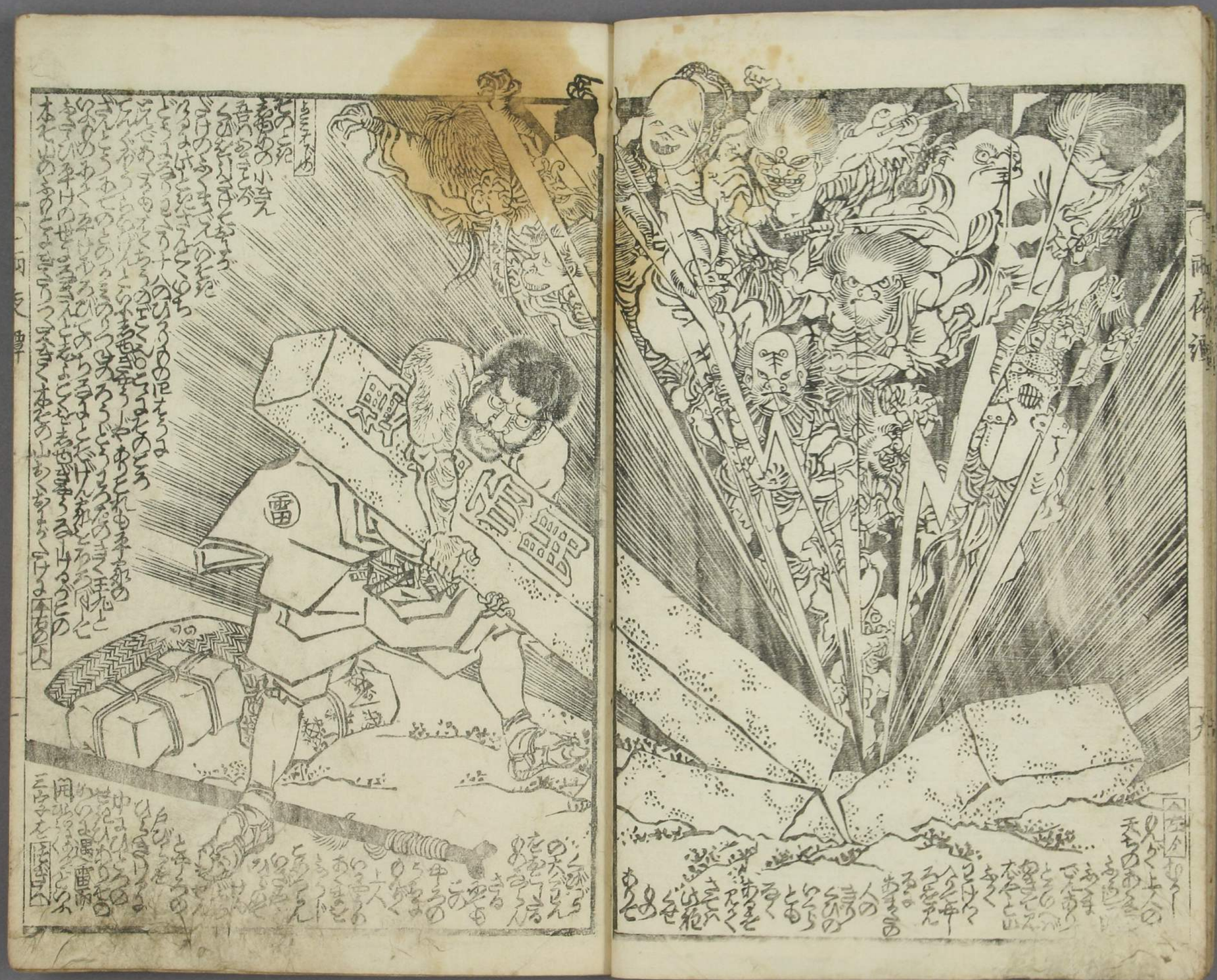
良弁

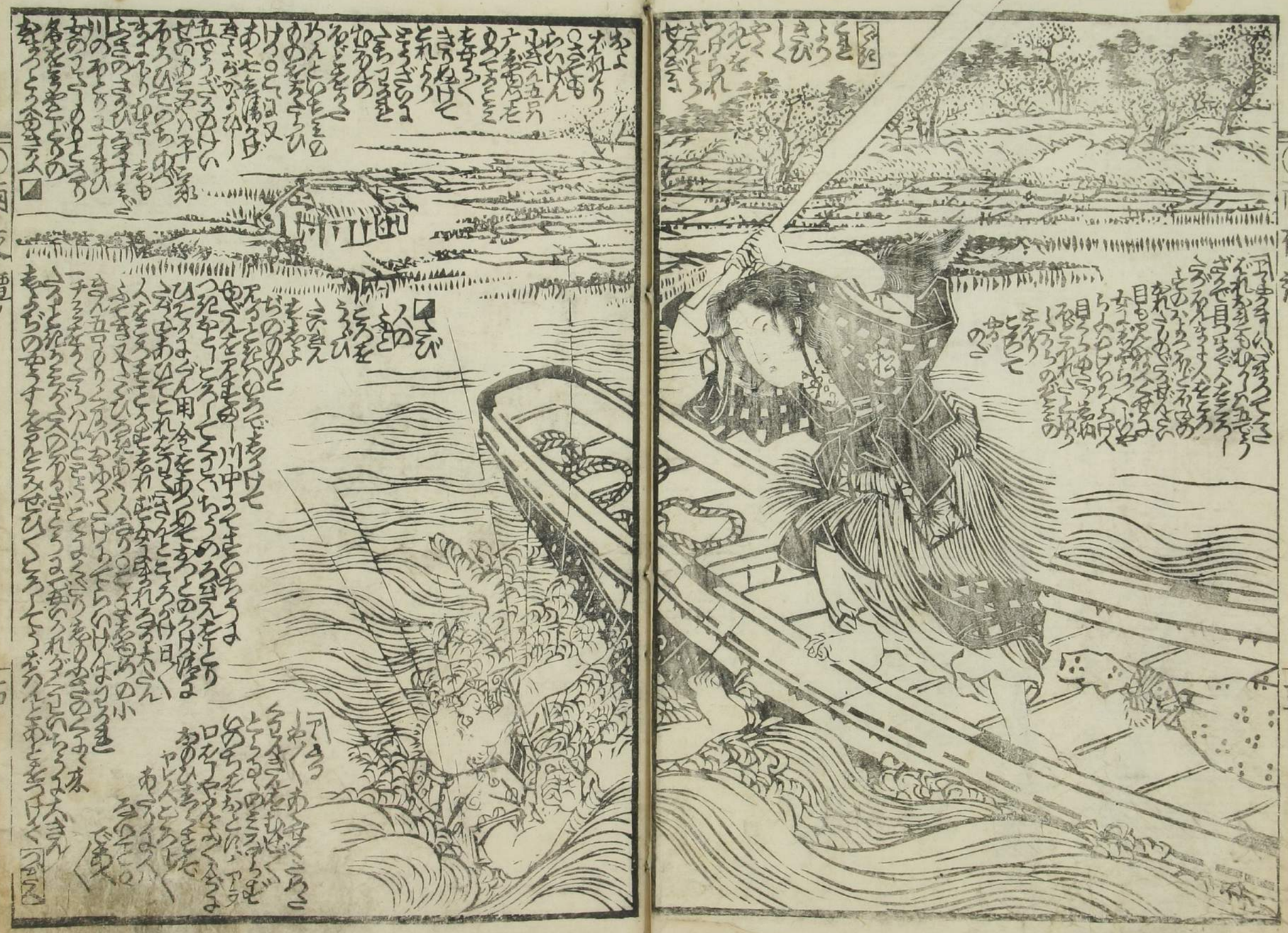
角田川の渡守女海盗都鳥のお松が悪七兵衛
景清が妻都五条坂の按君阿古屋と夫景清
行方あれざる後ながら川のうち守と
なり行来の旅人を舟
あそ殺一路費を
△
今ぞひ
源家よ仇
せんとえろる
光女房や
だらの花
良齋
都鳥の於松

浅草寺の一ツ家の花女岩波ハ
安徳天皇の宦女典の局なり
天皇を娘とせしあるを世なり
軍用金をあつめんと
旅人をとめて石の
枕をさせ大石を
ちとく金をとること
数ヨヌん是も後年
よいこり
日々
くれて
世中ふまを
とも宿るる
浅草寺の
ひとろ家のうち
一箇家の
岩波婆
の黒
雲

まぐく十八人の英勇の畧傳あり。とゝ人びとも紙數にかぎりあるをのつゝく今
あつゝよ四人の傳をいぐまを殘まる十四人の傳あらびよ黒雲太郎が傳ハ
二編よりづゝくとゝよ洩せり来春の出版まつハしくせんと欲まるあのこと

つゞき
三の巻





英泉画
良齋作

黒雲太郎夜雨譚

良齋作
英泉画

後編
全六冊

新鐫
春子

市川三升校合

乾坤坊良富作　　浮彩

黒雲太郎雨夜譚

くろくもたらうあまよものがたり

渓斎英泉画　　紅英堂

文政十二年新板

四の巻

ごてんのうちろろ又まうをの
をどろろてくそうどうまろとと大々ろろだ
とれいようてそのころまらふきこんある
あもげんろうそうよあり せつけらを
こそんのうらあてこきとうよあやび
久れがべのけ りくうちうよ
まひあうあひさーえいひ
つてよ又あそろーまろうこのむ
平あるようくーまろうこのむ
又二位どのようろれーらうこ女の
めんくあくけどりとろりくめ
くらうひられうちうみめうえ女をえら
こそこあるようのうちゆくよりとあらの
あこえとろりけるそのうちうあこ下どの
ときこくーいとも二八のさろりろりあ
こよりよりともこのきるあようえ下めの
ゆくゆるこ夜あときのこめあくより
ありてくあんとろう
らうくをあるむ
あるまむふよりまら
あやのゆそこくれ
ろひのうちゆけくる
ろうがよきたりりこ
ゆこくをゆけそちはあも
そのあとえのりあとろけ
ようにうろうこ大ひあつきく

四の巻

ごてんのうちろろ又まうをの
をどろろてくそうどうまろとと大々ろろだ
とれいようてそのころまらふきこんある
あもげんろうそうよあり せつけらを
こそんのうらあてこきとうよあやび
久れがべのけ りくうちうよ
まひあうあひさーえいひ
つてよ又あそろーまろうこのむ
平あるようくーまろうこのむ
又二位どのようろれーらうこ女の
めんくあくけどりとろりくめ
くらうひられうちうみめうえ女をえら
こそこあるようのうちゆくよりとあらの
あこえとろりけるそのうちうあこ下どの
ときこくーいとも二八のさろりろりあ
こよりよりともこのきるあようえ下めの
ゆくゆるこ夜あときのこめあくより
ありてくあんとろう
らうくをあるむ
あるまむふよりまら
あやのゆそこくれ
ろひのうちゆけくる
ろうがよきたりりこ
ゆこくをゆけそちはあも
そのあとえのりあとろけ
ようにうろうこ大ひあつきく

おそるをのそこゐわゐめそこちゐゑくゐやちくゐこれはのうちゐゐやゑのちくゐゐゐ

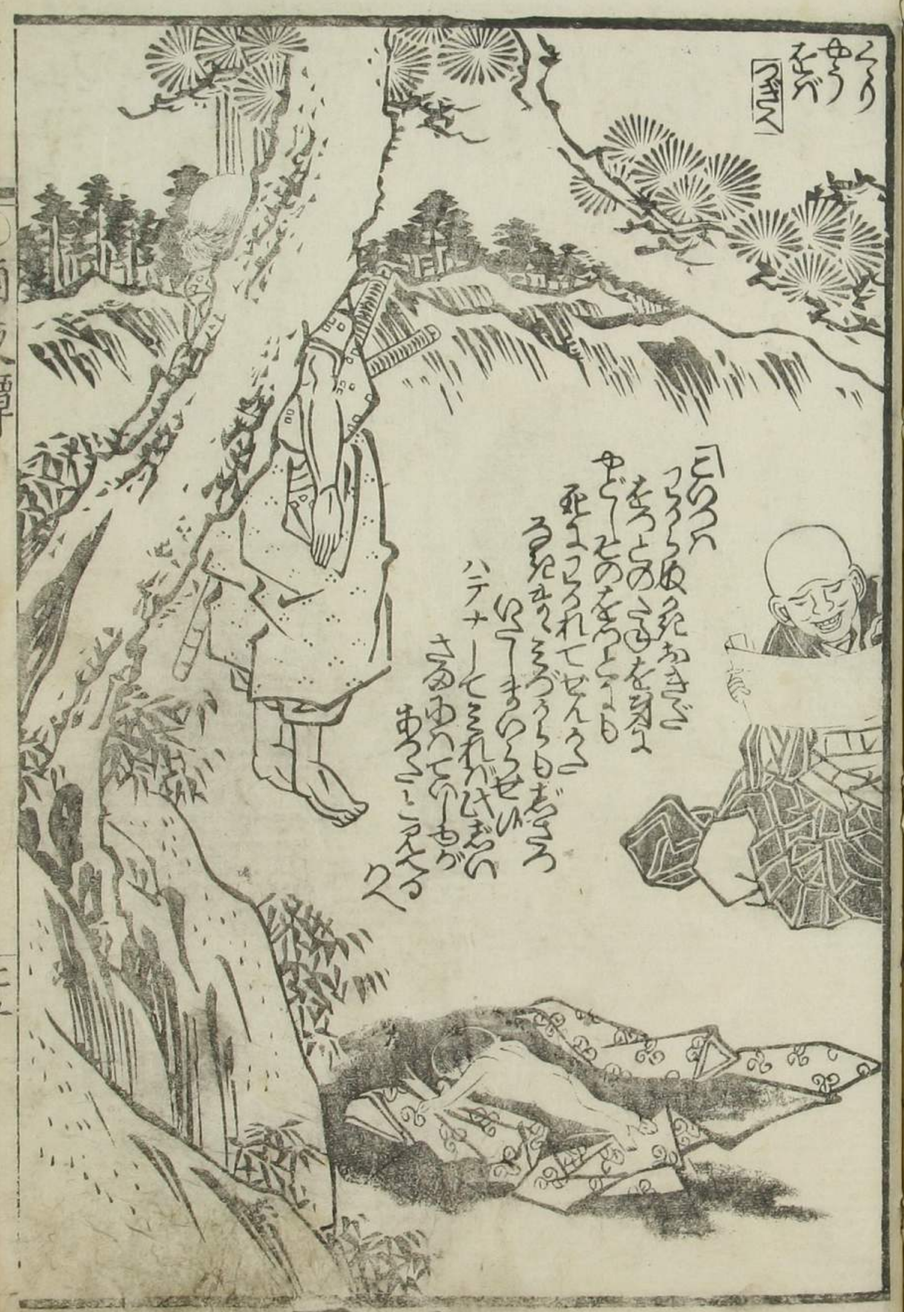
作者曰

つぎ

鎌倉花水橋

日尺ヨリ左り鶴ヶ岡江廿丁

つぎ



つぐきつれくづをりてきんぜんとのひろれば
みせりよろとびさうがをつくへさくのつぐ
せこあるへついひとふでまるればるらぬと
いるとけをうきのこてとおきこてとうの
さむいひのをこそをりてふとこ
ところをさりのこてふとこ
ぐとうをのこしこのひまこ
うのさむいひいそだうる
ねびえこみむしびと
おびをむしびさげ
おのれびびこまき
つけそこれくよく
をぬへうこんむの
のくこうこんでと
いろくまるをあ
うちろうこんのうる
しまこのふ
どもさだめ
るくひこの
くこをこのこ
そのまあこん
だろとうあ
をふるこてるむ
ゆうもみむひぬへ
ろとだろうこあど
ろをぬのこをこの[illegible]

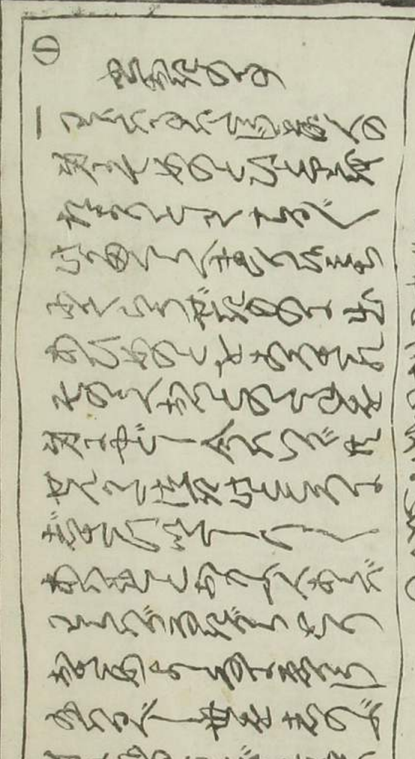
○糸だ町こ丁目
いろまんだ仮名氏蔵
せけんもるいあんの月の芸れろ
美艶仙女香 一包代十八文
おろろぎ代ひもうぐん
ち き弟上い

「こんるまこ
うめくるも
るいのめご
いもと
ちろそ
こへ
いられく
ちや
ぎろうろ
えーどんご
く

五の巻

てんどうふくりてさうの日つきく
うぶこくろくむの男子をうみあとたうるる
あらくまたるひとりのをとこ来りこそけう
まをこそのこうるうぎ直ろくそのをもの
あむりをひろそくさく小こをれふろこをのをうれん
えせゆきろろ者こくろこをのをうれん
上人あんでのくまこをれせうをうくをとも
るひ糸おろうまこくへんろうあそをこれその後
ゆきのくこをこるろくやあこれろうこあるのこ
るをとこるをきてゆびふぎのエこありゆくこ
ろひ来りこんゆこうこごろ立平ぎゆまろのこ
くびくろゆるるのんこうこのこ
そだろうるをのんこうこのこ

よまをのんこの文こいろく①



つぎ　ひとりをさうとーとのうめうらのあらびをめ
ろびやうく来るそのうちゆそらうせをめこ
であひーがめのとつひこうたれこりのきびひきこ
刃とあのひーまく者ろせんとさくみちやくこ
死ものきくひくそをうひうることのてくまろ
あろくとめのざくるをうのあもぎあうこやうぐ
ときこのそいあう君いむうくめたを夫あつり
そのみぐいあむ　ひめゆそいあつさばやまゆも
くさうゆもこうをあ死のつ夜こあく名をあうー
めのつざくのめともうりそれうーう今いるゆろ
つきくんのとのくさこのりつひのらうどうろむの
きて王とやもめのゆそくんの名いてくぐやう
らいげんとヲもうりこれすそ山ゆそこざ
りひのうここふぎのつうぎもをこうり
天池のめのぐをんぬくんやきめりうろうび
こうをるやすのうこれくりきこを
むこーのるこあうひまのくせをここ
川のここーのりみやどりのあまうぶゆこよ
めつけあうあ　めんきをあうりまのくせん
きこをこれまでつれまのくくるこのくせ
めのひとうごくのうるめのゆそくひ
うというーをくせをうそうあうろうくれ
こうづくるのちこうぐあんづくゆく
くつきあうをこうるせこうひめこーそ
くれんとそをるぐちのあこひと
くちのあをあをくるけとあの

㊂うちすて
大へりさん
ふあるさん
さてとびさるを

くさせめのいらをきこえーあうりと
ゆそくうえのぐちらぬをこうえ
てかテくよくもゆけぎこ
あうりけくつれゆそこうに
くえけれどのふまあうせを
ひちどをようめやせーかを
いくうぐんとまれぐ大ひくきこ
あこうきそくさせめのぐゆうの
あうりをりえとうひく
くうひつまこれはと
あどうく
くさめの
を

㊀

富

みれ　ひめとや
おひけんくの
くさのり
りくもこ
あとをきこうく
者でもくらい
けんへぐとうち
うこひまり　ひめを
ひきこれてゆさのくこへ
ありあきけり
ここうすをこ川のこうのぞく
みやことうのあこうへひとう
あれの山をるこ又あもめのゆきん
五うらとこうをあうせあへ
くのみうこをうりあつめぐ
ようきえをゆうんとまく
あくきゆうをうたんとこうよ
えどみちのくのこきうーつのたの
えんぐうんかよりあるはけんぐく
のはきうぎこーてあやこえん十
万あの礼りつをうきこーくあうる
ときこみちゆきちうけこれを
うそひこうえとそゆちみのめども
者こうがめこえくうこぐかーてこうぐえを
ゆあるあうこらのけんへ乃あり
ひめをうれ者こうまくくの

つぎ　うーとそまりさうぞくらうそどえびとりのかともるよ
そどのエとゆいんやみこころゆきくをーませとみづくら
それをさのアきーこ十人のゆんそくよれりをゆるいせ
つころーもと十月のるをゆけんくんをるものとえ
みちのくを志ゆつくろーとそうどろくなゆいどうよ
いどうる川のごのようくるこの日あさころゆえ死をからかし
さむえエとさくくくゆえそくどものるんぎえくこうーぶ
りゆもーてさうやをだいごーのつぞいのんではこむ
さを志ゆんとつゆ　ゆそうゆびとすキ大きよ
せいーとのせう　とうぞくみちくよそびこりゆの
ちよまびとぐまりをうをきくこれをぐびどよ
のまセろぎんるどうそんりをきてう
るえちらけっーとうゆうらふちゆくまる
までハつーーえくうるぐヤきけくるごく
コぶらまうゆをゆるくくぶまりーもこれを
ゆるくよあのくハエすこのちくふよ
くくりえくつぶさよ上えヤわけあのく
ざいうるよナつけんといまゆもきろ女
ゆんそくどもくうさくたきよたうら
ごちくくたんるハわさくうよきう
さるくくそのうくくら刃のエと
るれハるゆのをれるうゆも
るハゆるさうのるれ
いちこれくハあも
ゆをわるゆくくこの
さもさよ

松
雷
岩
小
みとりさけ
四頭種

萬壽屋八ッ橋
二個次郎左衛門　杜若紫再咲　六冊　岩井粂三郎作　溪齋英泉画

復讐奇談　黑雲太郎雨夜譚　六冊　市川三升校合　乾坤坊良齋作　溪齋英泉画

傾城艷擬三國誌　初編　六冊　一華葊主人作　哥川國安画

美艶仙女香　晴雨両天傘　代金弐朱　黑油美玄香　半八文　坂本氏製法

地本錦繪問屋　紅榮堂蔦屋吉藏　京橋南傳馬町二丁目　販

五